

## GLP-1（グルカゴン様ペプチド-1）受容体作動薬について

GLP-1はインクレチンと呼ばれる消化管由来ホルモンのひとつで、膵臓のβ細胞の受容体に結合することで、血糖依存的に膵臓からのインスリン分泌を促進します。他にも膵臓からのグルカゴン分泌を抑制させたり、神経系に働き、食欲抑制作用や胃運動抑制作用などの効果があります。体内のGLP-1と同様に作用する薬剤のことをGLP-1受容体作動薬といい、2型糖尿病の治療薬となっています。血糖依存的に作用するため、単剤での低血糖リスクが少ないとされています。

アテオスは「あてて、押す」が由来で、針が予め付いていて操作が簡単だよ

### ○当院で採用されているGLP-1受容体作動薬の一覧とその特徴

一般名	商品名	用法用量	特徴
デュラグルチド	トルリシテ皮下注0.75mg アテオス 	週1回0.75mgを皮下注	注射針は不要。 1本で1回分。 漸増の必要がない。 
セマグルチド	リベルサス錠3mg・7mg・14mg ※採用は3mg、7mg 	1日1回7mgを内服 ただし、1日1回3mgから開始し、4週間以上投与後、1日1回7mgに増量（適宜増減） MAX：1日1回14mg	1日のうちの最初の飲食前に、コップ約半分の水（約120mL以下）で内服。その後少なくとも30分は、飲食及び他の薬剤の経口摂取を避ける。 粉碎不可。
	オゼンピック皮下注2mg 	週1回0.5mgを皮下注 ただし、週1回0.25mgから開始し、4週間投与後、週1回0.5mgに増量（適宜増減） MAX：週1回1.0mg	初回のみ空打ちが必要だが、2回目以降は不要。 注射針が必要。 0.25mg/週で使用⇒1本で8週間分 0.5 mg/週で使用⇒1本で4週間分 1.0 mg/週で使用⇒1本で2週間分
チルゼパチド	マンジャロ皮下注2.5mg・5mg・7.5mg・10mg・12.5mg・15mg アテオス ※採用は2.5mg、5mg 	週1回5mgを皮下注 ただし、週1回2.5mgから開始し、4週間投与後、週1回5mgに増量（適宜増減） MAX：週1回15mg	世界初の持続性GIP*/GLP-1受容体作動薬で、より強い血糖降下作用が期待できる。 新薬のため、2024年3月末までは投与日数が2週間（2本）まで。 注射針は不要。 1本で1回分。 2023年8月の薬事委員会で当院において臨床試用薬剤となりました。

※GIP：グルコース依存性インスリン分泌刺激ポリペプチド

### ○GLP-1受容体作動薬の主な副作用

#### ◆ 消化器症状

悪心、嘔吐、便秘、下痢などの消化器症状がやすい。  
そのため、一部のGLP-1受容体作動薬は漸増し、維持量まであげていく。

#### ◆ 低血糖

単剤では低血糖が生じにくいですが、他の糖尿病薬（SU薬、グリニド薬、インスリンなど）との併用で低血糖が生じやすくなるため、注意が必要。

#### ◆ 体重減少作用

胃内容排出遅延作用、迷走神経を介した食欲抑制作用、中枢神経への直接作用によると考えられる体重減少作用がある。特にマンジャロにおいては体重減少作用が著しく、臨床試験ではBMI23kg/m<sup>2</sup>以上の患者に使用している。

薬局では、DI Newsで取り上げて欲しい内容を募集しております。  
何かございましたら、院内のメールにて薬局水野までご連絡ください。